

# 第56期（2024年1月～6月）

## 1月例会（2024年1月18日）

テーマ：「2024年日本経済の展望と再生に向けた突破口」

講師：中島 厚志 氏（新潟県立大学北東アジア研究所長／元経済産業研究所理事長）



講師：中島 厚志 氏



講演の様子

### コーディネーターの視点

2024年の日本経済は「底堅い展開」になる見通しの一方で、依然として様々な課題が山積しています。中島様からは、少子高齢化や産業空洞化、企業の投資不足、長年の賃金停滞がもたらした家計の所得・消費の低迷により、日本の潜在成長率の推移は、他の主要国よりも低いとのご指摘がありました。深刻な問題です。経済成長のけん引役でもある日本企業には、内部留保を積み上げるよりも、今こそ前向きな「設備」・「人材」への投資を行い、進取と積極性に富んだ経営が求められているのではないのでしょうか。日本はすでに「経済大国」とは言えない状況になりつつありますが、その言葉のみに踊らされ、悲観するばかりでなく、リソースを最大限活用していく戦略が必要です。

## 2月例会（2024年2月15日）

テーマ：「人的資本のエッセンス：ミクロからマクロまで」

講師：小野 浩 氏（一橋ビジネススクール教授）



講師：小野 浩 氏



講演の様子

## コーディネーターの視点

人的資本が注目されています。しかし有価証券における情報開示に関心が集まり、会計的視点からの議論になっているのが現状です。小野教授からは、「なぜ人的資本経営が必要なのか？」について、本質的な理解の必要性を促されました。人的資本経営の目的は、社員の能力が発揮できる条件を整え、生産性の向上を実現することです。日本の雇用システムは長期にわたる安定的な雇用という社会的なベネフィットをもたらす一方で、雇用の流動性を阻害しています。その結果、人材活用において無駄と非効率を生み出し、生産性を下げています。企業の競争力を高めるために、何が必要か。人的資本をめぐる日本企業の課題が浮き彫りになった講演内容でした。

## 3月例会（2024年3月21日）

テーマ：「敵を知る-サイバー攻撃最新動向と企業経営におけるリスク」

講師：増田 幸美 氏（日本ブルーポイント株式会社 チーフエバンジェリスト）



講師：増田 幸美 氏



講演の様子

## コーディネーターの視点

生成 AI の進歩は敵対者と防御者の双方にとって諸刃の剣と変容し、サイバー攻撃は技術の進歩に伴う洗練化とともに被害が拡大しております。増田様からは、サイバー攻撃を行う「敵」の手法、国際動向と比較した日本の現状など多岐に渡る視点から解説いただきました。技術の飛躍的な進歩が進む中において最大の脆弱性はシステムよりも「人」であることを強調された増田様のご提言は、参加者に最新動向に着目する必要性を提示するとともに組織におけるリスク対処の根幹は共通していることを再認識させていただきました。

## 4月例会（2024年4月18日）

テーマ：「日米の金融政策を巡る動きと日銀のゼロ金利政策解除後の影響」

講師：阿部 健児 氏（大和証券 チーフストラテジスト）



講師：阿部 健児 氏



講演の様子

### コーディネーターの視点

人干支にまつわる相場格言によると2023年は「卯跳ねる」と言われるように12月末から日本の株式市場は好調で、続く2024年は日経平均が最高値を更新や賃上げ上昇率5%など記録の年を迎えております。阿部様より日米の景況・金融政策の転換後の影響も踏まえ、長年停滞が立ち込めていた日本の金融市場に光明を照らすシナリオを示していただきました。

華やか未来が示唆される一方で、賃上げの世代間格差や継続性、地政学リスクの増大等、課題は山積しています。今年は「辰巳天井」と言われる中で竜頭蛇尾とさせないためにも、組織の舵取りを担う会員の皆様方による組織内への不断の努力が必要ではないでしょうか。

## 5月例会（2024年5月16日）

テーマ：「グローバル・サウスの台頭と日本の戦略的展望：ASEANとの連携の未来」

講師：大庭 三枝 氏（神奈川大学法学部法学研究科 教授）



講師：大庭 三枝 氏



講演の様子



## コーディネーターの視点

ロシア・ウクライナ戦争後、にわかに注目を集めた「グローバル・サウス」という言葉。大庭先生からは、「第三極」としてのグローバル・サウスが現代の国際政治においてどのような影響力と多様性を有しているか、90年代・2000年代・2020年代の歴史的経緯を鑑みながら、詳細にご解説いただきました。また、主体性をもった独自外交を追求するASEAN諸国との関わりにおいて、日本はこれから東南アジアから「選んでもらう」存在にならなければいけないという示唆は、今後の日本外交及び経済において、非常に重要なご指摘であったと思います。ますます不透明感を増す国際社会において、日本企業はどのような戦略をもって臨むべきか、改めて考えさせられる貴重な機会となりました。

## 6月例会（2024年9月3日）

※開催延期により2024年9月3日開催

テーマ：「解像度の観点での実践的アプローチ」

講師：権藤 悠 氏(株式会社キーマッセージ 代表取締役社長)



講師：権藤 悠 氏



講演の様子

## コーディネーターの視点

ビジネスの現場で聞かれるようになった「解像度」。売り上げの拡大やDX化、人事・評価システムの構築など、あらゆる経営課題において、分析対象を正しく精緻に認識する必要があります。権藤講師は、「解像度力を持った人とは、①物事が細かく見える（具体化思考力）、②ユニークで鋭い洞察を持っている（抽象化思考力）、③物事を分かりやすく伝えられる（具体⇄抽象思考力）」と定義しました。具体的な課題の把握はもちろん大切ですが、抽象化の思考作業とを行き来し、より高次な理解につなげる。その重要性を認識できた場だったと思います。